

## タイトル：大門口女人堂跡

大門口女人堂がもともと建っていたのは、高野山と女人道と橋本地区を結ぶ霊山の山腹の険しい峠でした。その峠道は弁天岳の頂上と、壇上伽藍への入口である大門の間で女人道と交わっていました。その道が極めて険しく、旅をするのが難しいことが多かったために、最終的に第2の道が建設されました。その新しい道は、もっと大門に近いところで女人道と交差しており、より登りやすいように、まっすぐな道だった古い方の道とは対照的に、曲がりくねった道でした。第2の道が建設された後、古い道は使われなくなり、最終的には閉鎖されました。今日では、両方の道とも、現代的な舗装道路に取って代わられました。その舗装路は大門の近くで高野山に入ります。

女人道がこのように伸びたことで、高野山の聖域に最も近くまで行けるようになり、女性たちや他の旅人たちは、聖なる建物を垣間見たり、壇上伽藍の鐘の音を聞いたりする絶好の機会を得ることになりました。この道はまた、いくつかの鳥居の下を通っています。鳥居は、聖域への入口を示す門です。歴史的に日本においては、神道と仏教は平和に共存していました。高野山をはじめとする数多くの重要な聖地では、神道と仏教の信仰の両方が聖なるものとして認識されています。